

よって 件 (くだん) のごとし

～予言する正直な怪物～



(文書館毛利家文庫 29 風説 42「止可雜記」収載)

上は、丹後国倉橋山に現れたという件(くだん)とよばれる人面牛体の怪物。天保7年(1836)に丹後国与謝郡で刷られた瓦版の写しのようで、原本にあたるものをウェブ上で見ることができます。当館にはこのほか、文政2年(1819)に上関で生まれたという件(くだん)の記事も見ることができます(裏面参照)。

件(くだん)は江戸時代末期から西日本各地にあらわれ、豊年や飢饉・疫病等の流行を予言したり、また日清戦争や日露戦争の前にも姿を現し、日本の将来を予言したりしたとされます。太平洋戦争時にも広島県の山中や岩国、松山等で出現の噂があったようです。近くは阪神淡路大震災や東日本大震災のときも、都市伝説のように件(くだん)の目撃談が語られました。

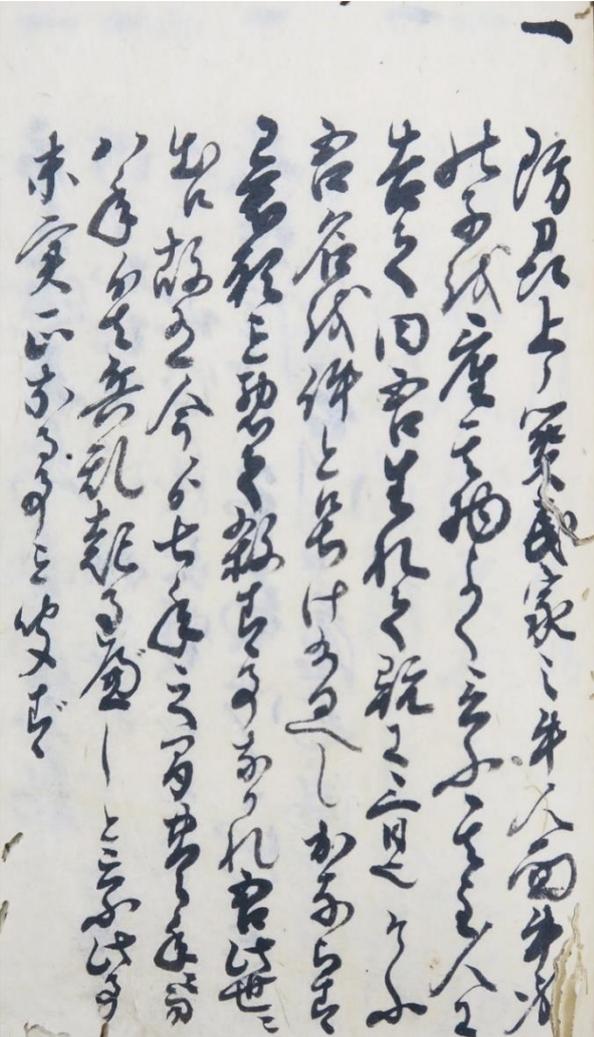
件(くだん)は世情不安の時に現れ、さまざまな予言をしますが、その性質は至って正直で、その予言は外れることがないとされます。古来、書状・証文などの最後に「よって件の如し」(前記記載の通りである、の意)と書き記す慣例がありますが、それはこの件(くだん)が正直なことから来ているという説もありました。

「件」は「人+牛」の文字ですから、一種の言葉遊びのようですが、件(くだん)の出現の背景に、遊びとはかけ離れた厳しく不安な社会情勢があったことは確かでしょう。それらの不安を背景にして、写真の件(くだん)が予言するように、「自身の絵を描いて貼っておくと、災いを免れ豊年になる」という予言を信じる気持ちが人々に広がっていったのでしょうか。

みなさんも、この件（くだん）の絵を、切り取り線で切り取って、家のどこかに貼っておかれてはいかがでしょう。

大豊作をしらす（知らせる）
 件（くだん）と云獣なり
 天保七申十二月丹波の国
 倉橋山の山中に、図の如くから
 だ（体）ハ牛、面は人に似たり（る）件と
 いふ獣出たり。昔宝永二年
 酉の十二月二も此件出てよく
 年（翌年）より豊作打つゞき候と古き
 書二見えたり。尤（もつとも）件と
 よ（読）ますト云う文字ハ
 人篇（にんべん）二牛と
 書て件とよむなり。
 至て正直なる獣故に
 都（すべ）て證文の終二も如件（くだんのごとし）と書
 此由縁也。此絵図を張置バ家内
 繁盛して他病をうけず、一切
 の禍をまぬかれ大豊年を得る
 誠目出度獣なり

当館の件の写しのもとになったと思われる瓦版。同内容が刷られています。
 (Wikipedia より)



防州上ノ関民家之牛、人面牛身
 の子を産、其物よく言ふ（人語をしゃべる）、其主人に
 告て曰、吾生れて既に三日也、けふ（今日）
 吾名を件（くだん）と号（なづ）け給（たまわ）るべし、かならず
 異形を悪（にくん）で殺す事なかれ、吾此世ニ
 出ル故有、今より七年之間豊年二而（て）、
 八年よりは兵乱起るべし、と云ふ、此事
 未（いまだ）実正なる事を聞ず
 （毛利家文庫 19 日記 18「密局日乗」67 文政二年五月十三日条）

(参考)

作柄の豊凶や疫病の流行を予言し、自身の絵を描いて貼っておくことで厄災を逃れるとする怪物はほかにもいくつか知られており、「アマヒコ（海彦・天彦など）」「ヤマワラハ（山童）」「神社姫」「姫魚・人魚」等々とよばれます。

下の写真は、天保14年（1843）に肥後（資料中では筑紫）天草にあらわれたという怪物です。「アマヒコ」、「ヤマワラハ」の多くと同じく三本足をもち、木の葉あるいは羽のようなものをまとっています。疫病の流行を予言し、自身の絵を見ることで難を逃れるという点も同様です。



天保十四年のとし 此神靈は
つくし（筑紫）天草といふ処の山中に
あらハれ出て ことしより三年
のあひた（間）は あしき病
はやりて 四方の
人あまたかの
病におかされ
死すると告給へるとや
されと此怪異なる
神像を画きて 日々
ミるときハ その難をのかるといふ

「疫病除天草神霊画」（吉崎家文書 415）